

## シンポジウム SY2-3

### 4 台運用施設

金井克好

牧田総合病院 CE 部

当院では現在、第一種高気圧酸素治療装置を4台使用し、年間約4,000件程度の治療を行っている。2019年までは1台運用であったが、以降徐々に台数を増やし2022年に4台稼働となる。4台稼働となったことで、いろいろなメリットやデメリットが生じたため運用方法の検討を行っている。今回はそれを共有し、新たに増台を検討している施設や、また同じような問題を抱えている施設との意見交換や状況改善のため、当院の事例を報告する。

第一種高気圧酸素治療装置の複数台での使用においての大きなメリットは、治療枠数が増えることにある。台数が多いと当然ながら同時帯の治療枠が増えるので患者の希望する時間での治療を提供しやすくなる。また医師からの減圧症などの急な依頼に対しても、枠が増えたことで患者スケジュールを調整し、受け入れられる状況を作りやすく、同時に早期対応できる患者数を増やすことが出来るようになる。などのメリットが生まれる。また、台数が少ない時は遅い時間まで治療を実施しており、患者もスタッフも負担がかかる状況の時もあったが、4台稼働となったことで、その頻度が大きく減ったこともメリットとして挙げられる。

デメリットとしては、台数が増える事で装置・物品管理や治療予約等の患者管理などが複雑になった。当院では2種類のメーカーの装置を使用しているので、それがメリットとなる事もあるが、増台時はやや複雑になりデメリットとなる。単純に件数が増える事での安全に対するリスクも上がる。

他にも様々なメリットとデメリットはあるが、運用方法の改善や習熟にてメリットを大きく、デメリットを小さくすることは可能であると考え。

第一種高気圧酸素治療装置の複数台所有について、デメリットもあるが安全で適切な運用を行う事で、患者、スタッフ、病院それぞれにメリットがあり、十分に検討する価値があると考え。